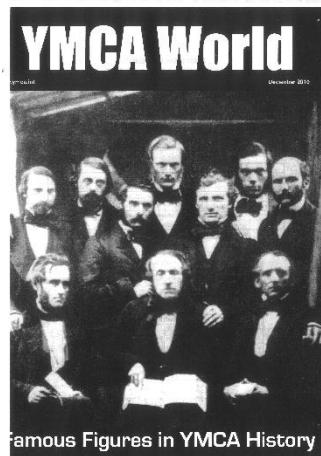


「ふくしま YMCA」設立趣意書について

1.

今から約180年前、「教会の外」での奉仕活動として、ロンドンの学生が運動体を起こしました。「YMCA」の始まりです。教会はどうしても「内向き」になりがちなので、いつも、こうした動きが出てきます。神様の恵みです。



<https://x.gd/k2B8P>

2.

YMCAの運動は、ロンドンから世界各地に広がりました。

そして、学生生活を終えて社会人となった方々が、YMCA運動を支えるクラブを作り始めました。始まりは、米国オハイオのトレド市、1922年のことでした。

The Y's Men's Club
OF TOLEDO, OHIO

TOLEDO Y'S MEN

Membership Ohio Association
of Y's Men's Clubs

OFFICERS (July 1, 1922)

DORMAN RICHARDSON, President
309 Gardner Building

JOHN KLAG, 1st Vice-President
Willys Overland Company

PAUL CONEY, 2nd Vice-President
231 Erie Street

BYRON GARDNER, 3rd Vice-President
323 Ohio Building

FORD WEBER, Secretary
220 Nicholas Building

BLUE BOOK

ワイズメンズクラブ国際協会と名付けられたこの運動体は、今、76か国・1,504クラブ・25,076名で活動を継続しています。その「国際協会」の中に「アジア太平洋地域」があります。韓国とインドを除くアジア太平洋地域をカバーしています。

その中で日本の存在感は大きく、国内に 134 クラブ・2,081 名が活動しています。あまり他の国々と規模が違う、ということで、日本は 30 年ほど前に「東日本区」と「西日本区」に分かれました。今は、おおよそ、6 月の第一土曜日に「東日本区大会」、第二土曜日に「西日本区大会」が行われています。

来年の「東日本区大会」は、石巻で行われます（添付のチラシをご覧ください）。ここで「ふくしま YMCA」の設立に向けた動きを大きくアピールできないか、と考え、今、私たちは一歩を踏み出した、という感じです。

3.

YMCA 運動についていえば、日本でも大阪、東京そして仙台あるいは日本全国の諸大学で、150 年ほど前に活動が始まります。各都市と大学の YMCA は「日本 YMCA 同盟」を結成し、連帯して運動を進めています。

福島には、かつて、
仙台 YMCA との繋がりの中で、
相双地域に学生の YMCA 運動
があった、と聞いていますが、
詳細は分からずになります。また、
やはり仙台 YMCA との繋がりの中で、会津にワイズメンズクラブがあり
ましたが、震災後、残念ながら、解散となつて行きました。

そうした中で、2011年以降、東日本大震災への支援として、福島県への支援が、続々と、全国のYMCA・ワイズメンズクラブによって広範囲に実施されました。しかし、それらは、なかなか、連帶したものとなりませんでした。受け皿になる団体の必要が、痛感されました。

YMCA

YMCAと関東大震災

災害被災地支援活動の原点に学ぶ

日本のYMCAは伊勢湾台風、阪神・淡路大震災、西日本大震災、阪神大震災、震災被災地支援の大明燈災害が発生した際、会員のYMCAで協力して被災地救援活動を行っています。その歴史的原點は1913年の関東大震災発生時に先人たちによって行われた活動から生まれています。

2023年、関東大震災から100周年の節目を迎える前に、私たちが何を学ぶべきかが問われます。

同時に、今後、大震災発生に直面したとき、関東大震災の際、発生した朝鮮人・中国人虐殺という惨劇を繰り返させないために必要な教訓も先人の歩みから学びたいと思います。

「レシル」（英語）、つまり「下宿の」「アフターハウス」

震災が発生した際、会員のYMCAで協力して被災地救援活動を行っています。その歴史的原點は1913年の関東大震災から生まれています。この歴史的原點は、1913年1月2日午前1時頃、東京近郊の葛西川河口付近で起きたM7.9の地震によるもので、これが発生したときに、多くの人々が犠牲となりました。この悲惨な出来事は、その後の日本の社会や文化に大きな影響を与えたといわれています。

2023年7月号 関東YMCA会報

それで、全国YMCA総主事会議は「ヴァーチャルな YMCA」を構想してみようと、一つの冊子を作りました。それが「ふくしまYMCA」と名付けられたのです。

4.

この冊子を起点にして、「ふくしまYMCA」を設立させよう、と、努力が始まったのですが、ほどなく「コロナ」の騒動になりました。YMCA 側での動きは、止まってしまいました。

そこで、ワイズメンズクラブの本州関東以北の地域の責任者（大久保さんとおっしゃいます）が、「この動きを再起動しよう！」と大きく呼びかけて下さいました。

そして、福島県に隣接する 3 県の都市 YMCA（仙台・とちぎ・茨城）の総主事と、冊子「ふくしま YMCA」作成時の担当者でもあった盛岡 YMCA 総主事が、ワイズメンズクラブの志に即応してくださいました。



5.

そのタイミングで、日本バプテスト連盟福島主のあしあとキリスト教会の大島博幸牧師（右下写真）が、NPO 法人「東北ヘルプ」の繋がりの中で、この運動に主体的に関わり始めて下さいました。

大島先生は、長く YMCA 運動に関わって来られ、前任地の埼玉では YMCA の理事も担われていたのでした。

NPO 法人「東北ヘルプ」代表の川上は、被災地支援の一環として、石巻のワイズメンズクラブを支援していました（今は、その書記をしています）。

福島赴任後、大島牧師は東北ヘルプの理事に加わって下さいり、東北ヘルプが事務局を務める食品放射能計測所を、福島市で開設して下さいました（仙台にあった計測所を移設したのでした）。

そうした中で、大島先生の教会が、素晴らしい会堂建設を成し遂げられました。その新会堂を、地域のために用いたいと、大島先生が志を抱かれ、そして今、「ふくしま YMCA」のための会議は、毎回、福島主のあしあとキリスト教会で開催されています。その会議の中で、



福島主のあしあとキリスト教会

- 福島市内で子どもたちの被ばく減災に努めてきた「キッズケアパークふくしま」が、今、追究しておられる「国際全人教育」を、支援すること。
- 震災後に始まった EIWAN(福島移住女性支援ネットワーク)が進めている「人権としての日本語教育」を支援すること。
- フクシマ(原発事故の被災地全域)の複雑さを肌身に知りながら「平和」を学ぶ、そのような機会を提供すること。

——等を目指した YMCA 運動を始めよう、と、話がまとまって来た、ということで、別紙ファイル「趣意書」が出来上がりしました。

(2025 年9月 29 日 NPO 法人「東北ヘルプ」代表 川上直哉 記)